



大沼 吹雪 新連載

今回から、「ジェノグラム for Everyone」という連載を始めます。マガジンとの出会いは2020年。ジェノグラムについて調べの中で千葉晃央さんと出会い、それをきっかけに、ときどき読むようになりました。それから6年。今度は自分も書くことになりました。

私は秋田県横手市役所の職員です。児童福祉を担当したことをきっかけにジェノグラムと出会い、その後、いろいろな方から学んできました。国の調査研究事業の委員を務めたり、現在も秋田県の法定研修で講師をしたりしています。

ジェノグラムについても、仕事についても、分からないことや「これ、どうにかできないの？」と思うことに、ずいぶん首を突っ込んできました。そんな中で、自分だからこそ見えてきたこと、伝えられることもあるかと思っています。そんなことを、この連載で少しずつ書いていきます。どこかで「それ、私も思った！」があればうれしいです。これから、どうぞお付き合いください。

ジェノグラム for Everyone

P 288

八木 慎一

日本全国の人が感じられていると思いますけど、暑いですね。京都も盆地やと、39度とか平気であります。ただ、福祉事業所の開所時間には、明確なサマータイムはなく、9時から16時までオープンです。農業を仕事にする「農福連携事業所」でも、変わらずです。日中畑に出て、海老芋の土寄せ作業や、ナスの剪定作業をしているのですが、周りの農家さん誰一人として田畑にいません。農家さんは朝5時から9時。そこから昼寝して、16時から19時みたいな動き方なんです。ちょうど僕らが動いている時間と逆になっているんです。これが農福のつらいところなんです…。

対人援助のジレンマのありか P282

シルバーマン 恵子

強くなってきた雨と風の音と気配。そして、いつもと変わらぬカエルの声に包まれて、この短信を書いています。今年もエルニーニョでハリケーンの数はいくつも増えるという予測を春頃に聞きました。毎年、ハリケーンは発生しますが、必ずしも住んでいる島に上陸するわけではなく、最後にこの島に上陸したのは2014年。その時は、大量の木々がなぎ倒され、大好きだった近所の木のトンネルも壊滅し、3週間ほど停電が続きました。

この島がハリケーンの影響をどのくらい受けたのか？がわかる明日の夕方に飛んでいき、状況を確認できれば、とこんな時にも、タイムマシンが欲しくなります。

気づくと今年も折り返し地点を越えただけではなく、もうすぐ残り三分の一だと思ふと、時の速さに圧倒されると同時に、来年の日本は、世界はどんなところにいるんだろう？パレスチナは？ウクライナは？米国はどんな状況だろう？そして、日本と中国の緊張感は？と、タイムマシンも欲しくなりますが、私たちが少しでもより人間らしく生きられる方向に流れが向かっていくことを祈りたいと感じています。

今日は終戦の日でもあります。父親を戦争で亡くした両親の元で育った私は、子どもの頃は、「おじいちゃんに会いたかった」と、会ったことのない祖父の存在を残

念に思っていました。



今の私は、戦時中の貧困や戦後の混乱の中で、父親のいない家庭で育った二人が、どんな思いで、そしてどんな困難を抱えながら、急速に変化していく社会の中で家族をつくろうとしたのだろう、と想像します。私たちの社会は、世代を越えてまだ戦争の大きな影響の中にあると感じます。戦争を始めない。戦争に加担しない。そして、解決に向けて関わっていかうとする。そんな流れが、これからもっと強くなっていくことを願っています。

対人援助のための NVC P280

八木 明恵

AIは人間ではないと分かっているのに、AIとの人間関係に悩むことがあります。

研修では「AIに心はありません」と言い切っているのに、普段の私は、まるで心があるかのような錯覚に振り回されることがある。「どうしてそんなことを言ったの？」とAIに問い詰めて、返ってきた答えがあまりにもとんちんかんだと、なぜかとても安心します。「ああ、あなたもやっぱり計算機だったのね」と。

毎日かなり長い時間を一緒に過ごしているからこそ、近づきすぎたり、逆に距離を取り直したり。その繰り返しです。

AIとの付き合い方を考えることは、案外、人間である自分の側を考えることなのかもしれません。

思考の補助線 P276

田中 千晶

先日聞いていたラジオのテーマは『あなたの人生のテーマソングは？』でした。人生！と聞かれると1曲に絞れないので

すが、その月、その季節、その時の心情にはこれ！という曲はパッと思い浮かぶタイプです。

切羽詰まるほどボルテージが上がってくる私。課題提出や資格試験前のテーマソングはももいろクローバーZの『ワニとシャンプー』です。この原稿作成も『絶体絶命！Summer Night 完徹決定！All Night ヤバイ！ ヤバイ！ まちでヤバイ！』という歌詞がピッタリ！ギリギリでいつも生きています。（これはまた別の歌の歌詞）

森で出会えば・・・ P274

本林 友梨

もう夏も過ぎようとしている。前回の執筆から今回の執筆までの3か月間で、プライベートでも仕事でも研究活動でも様々な経験があり、はっきり言って、調子を崩した。「こうやって調子って崩れていくんだなあ」というのを人生で初めて体験した。何か怖い大きなものに引き込まれていくような感覚だった。必要以上の刺激を受けたくない心と心の底から思っただけで行動する日々を過ごした。

とはいっても、時間は過ぎる。マガジンの締め切りは来る。「とりあえず、書かなきゃ。続けなきゃ。」ということで、本当に久しぶりに研究と向き合った。マガジンがなければ、まだ向き合うことはしていなかったと思う。ありがとう、対人援助学マガジン…。これぞまさしく、対人援助のマガジンだ！（次の短信には楽しい内容を書きたい。）

心理臨床における 多重関係を考える P270

馬渡 徳子

夏休み、三月まで石川中央地区にて二次避難を継続していたが、口能登地域（能登の入り口付近の自治体）に新たに住居を構えた子ども世帯と、偶然に能登につながる道の駅で再会した。

社会福祉協議会主催の研修講師を終えて、名物の能登ジェラートを口いっぱい頬張っていたところに、「のりこせんせい、どしたん？ めっちゃ、おしゃれしとるじ。」と声をかけられた。ママにも「幸せそうな顔し

て。笑。」

この子は、対人援助学マガジン第60号執筆者短信に紹介した2025年春の就学にあたり、「ほんとうは、のどのしょうがつこうにいきたい。」という気持ちを二次避難先の祖父母に制止され、親になかなか伝えることが叶わなかったが、私に打ち明けたことをきっかけに、親に気持ちを伝える練習をして、パパが単身赴任先から帰宅している晩の風呂場で伝えることができたあの子でもある。

パパとママから、残念ながら希望は叶えられないが、打ち明けてくれたことを喜んでくれ、『はばたくとり』の折り紙を持ってきた。「これしつとる？ はばたくとりっていうげんよ。かなしいことやこわいことがあったら、これをうごかしたら、こころにまほうがかかってふきとばしてくれるげんて。いっこ、あげるね」と私に報告してくれ、その後は私が保管している『はばたくとり』で元気のない友だちをみつけると元気づけていた。

小学二年生になり、背丈もぐんと伸びていた。「せんせい、ダンスとボード、やるよ。」と嬉しそうに報告してくれた。そうして、今習っているストリートダンスを披露してくれた。

どうやら、三歳から習っていたダンスとボードの習い事を再開するために、パパの勤務先にも30分以内に着けて元々習い事に通っていた自治体に引っ越すという選択をされたとのことだった。

パパ・ママによると、その自治体には公共交通機関が複数あり高校卒業まで利便性が高いこと、親自身も石川中央地区での地震後の新たな生業を継続するためにも移住した子育て世代が結構おられるとのこと。今後の家族構造の変化にも対応できるようにと、県職の公務員試験を受験し続けている友人もいるとのことだった。ふるさとの仮設住宅で暮らす祖父母世帯にも近いこともそのような選択をされた要因とのことだった。

『はばたくとり』ね、めっちゃ大活躍しているよ。ありがとうね。またいつか会えたらいいね。」という、うんうんと頷いていた。

招かれし朱鷺よ
揚げよと祈るは
幸福の種まきなり

2026年5月31日 日本邦初の朱鷺放鳥

に寄せて



今号は本文をお休みさせていただきます。

馬渡の眼 休載

水野 スウ

8月末日をどうにか無事に迎えられてホッとしているところです。2年前から、夏になると夫婦して急に具合が悪くなる、を繰り返していたんだけど、今年は年々暑くなる地球にとうとう白旗をあげて、わが家に初めてエアコンを取り付けました。

電気にあまり頼らずに暮らしたいと、向かいの雑木林を抜けてきた風が南北東の大きな窓から自由に出入りする家を建て、それで特に苦もなく30年間、暑かったら扇風機を回すくらい、それでも「スウさんち涼しい～」といわれるほど、無理にがんばることなく穏やかに夏を過ごしてこれたのですが、ついに。

とはいえエアコン設置を決意するまでの涼しい6月、続く急に暑い7月とで、老いた胃腸はとつくに悲鳴を上げていたんでしょ。いまだにおかゆ中心の、お腹をいたわりながらの日々が続いています。やれやれとほほ。

温暖化の脅威は、つい先ごろの北陸への突然の豪雨や、ついには氷河までも崩れ落ちるほどに迫っていること、実感します。まじ、戦争なんかしてる場合じゃない！です。にもかかわらず、高市首相は戦争の準備に突っ走ってるとしか思えない政治をしている。2月の衆院選以来、多くの市民が声を上げ、路上に立つようになったのも、憲法に関心を持つ人が増えたのも、そういった危機感の表れか、と思います。

憲法のお話出前の注文もまた増えてきました。そんなこんなで、今回は憲法語りの初心に戻って、憲法前文のこと、前文ワークショップのことを書いてみました。お読みいただけたら幸いです。

きもちは言葉をさがしている

乾 京子

「暑いですねえ。」「本当にいつまで続くんでしょうねえ。」「一雨欲しいですねえ。」このところ毎日のご近所さんとの会話です。まったく、年々暑さが厳しくなってきました。

とはいえ、一方沖縄や関東では台風だ、ゲリラ豪雨だと大雨による死者まで出てきています。地震の後の熊本も気になります。地球が悲鳴を上げているというのに、温暖化を防ぐどころか、ウクライナもガザもイランも戦争によりますますひどい状況です。

80代を前に、体力もそれなりに落ちてきているのでしょうか？この夏は、夏風邪をひいたり、立ち上がるのとくると目が回ったり、体調を崩すことも増えてきました。自分の体力を過信せず、身体と心の声に、今まで以上に耳を傾けていないといけないなあと思った今年の夏でした。

じゃりんこ文庫 P268

中谷 陽輔

この文章を書いている8月25日は、小学生の息子の夏休み最終日です。とはいえ、我が家は共働きなので、お盆休みの数日を除いて、子どもたちは学童・保育園を利用し続ける日々でした。

ただ子どもたちは、連日の熱中症アラートにより、一日中室内で過ごさざるを得ない日もかなり多かったようです。そんな子どもたちへの親としての心苦しさも相まって、休みの日はなるべく外出していました。

プールはもちろん複数回。夏祭りなど、夏休みならではのイベントにも多く足を運びました。屋外で開催されるものはなるべく夕方から参加し、できれば空調のきいた屋内で開催されるものを選ぶ日々(ショッピングモールで開催されるものが、とってありがたい……)。

そんなこんなで、“涼”を求め続け、子どもたちと親自身の体調管理にも努め続けた夏休みが、もうすぐ終わります。外出日和となる秋が、もうすぐそこまで来ている、はず(!?)です。

子育てを終えた先輩方からは、子どもが

楽しくお出かけについてきてくれるのも、せいぜい10年くらいと聞きます。だからこそ今のうちに、子どもたちのお出かけをできるだけ楽しんでおきたい……！と自分に気合を入れつつ、秋の外出計画をさらに練りたいと思います。

コソダテノシンリ P245

団 士郎

自分のことを、太っちょの爺さんだと思いう日が来るなど想像したこともなかった。しかし実際、ドール四条店のカウンターでミラノサンドAを待っていると、左手に大きな鏡があって、写っている自分が目に入る。

そこにいるのは紛れもなくお腹が出たふとっちょ爺さんである。見慣れない感じはあるが、そう嫌なわけでもない。自慢できることではないが、八十年近く、ダイエットなど考えずに生きて来た。(健康には気をつけているので太りすぎには注意を思っているが、そのリミットを年齢に合わせて増やしているのは問題か？)

大学生時代、一番痩せていた時、身長は今と変わらないが体重52キロだった。それが現在は77キロ、25キロも太った1.5倍人間になっているわけだ。もっとも年齢は3倍になっているし、人間としてはもっともっただ(笑)。

その割にどこことって体調の悪いところは今のところなく、あちこち動くのが億劫でもない。歩く速度はやや遅くなった気がするが、まあ歳相応だと思えばいかほどのこともない。



写真を読み込んでチャッピーに「似顔絵を描いてみて」と言うこんなモノ(左)が。「もう少しふざけた感じにして」というと右が。漫画家の出番もなくなるわなあ。

晩年D・A・N通信 P33

内田 一樹

「継続する」とは何かを考え続けた夏だった。20年来ファンだったSCANDALというガールズバンドが、来年21周年を機に活動終了を発表した。同一メンバーで世界一長いガールズバンドという記録を持っていて、女子高生バンドとして彼女たちがデビューしたとき、同じように男子高校生だった私は、その後の人生の節目や様々な思い出と共にその時々の彼女たちの歌がある。「継続する」とこと何かの「終わり」。自分にとっての節目も考えていく時期に来ていると思う。

社会科の授業を 対人援助学の視点から P256

宮井 研治

今回の掲載で、14回分書き上げました。唐突ですが、今回で一旦休載しようと思います。「書きてえ」という思いから始め、1回分だいたい5000字を書いたわけです。駄文とはいえ、概算七万字はなかなかの作業でした。とりわけ、「締め切り」という言葉が大の苦手でありながら、よく書けたかなと思います。

ここで一休みして、自分の書いたものを少し見返してみようかなんてね、そんなことを考えての休載です。まだまだ書きたいこともありますのでそのうち戻ってきます。

こんな身勝手な一執筆者の意向を尊重してくれる懐の広い団編集長をはじめ、大谷編集委員、千葉編集委員には感謝の言葉もあります。では、その時まで、アディオス！！

人生は対応のヴァリエーション P263

櫻井 育子

涼しい夏だった。わたしは夏が弱いので、過ごしやすくていいのだがなんだかんだと体調に左右されることが続いた。それで、ということではないのだが、自分が移動し続けてきたフェーズから、「来て欲しい人を宮城に呼ぶ」という方向にちょっとずつシフトしている気もする。意図してそうしているわけではないのだが、やはりそこで

わたしの周りの人が、わたしの好きな人たちに会ったときの促進力たるや、最高なのである。オンラインで団士郎さんのトークライブを久しぶりに聴いて、ああ、やはり直接聴きたい、と思った。そうそう、東京で遊さんに久しぶりに会って話ができたこともあって、やはりもっと「直接会う」という機会を大事にしたいと思った。

いや、やはり大事なものは、ちゃんと「身体ごと」出会う、ということなのだよね、と思った。

生涯発達支援塾 TANE 代表

shukou0122@gmail.com
<https://ikuko-sakurai.com>

現象学としての書道 P243

畑中 美穂

前号の短信で、種から蒔いて藍を育てていること、無事に育って何らかの作品になったら「ご披露します」と書いた。その後すくすくと育ち、葉を摘んで布を染めたり紙を漉いて入れたり。作品の素材としての制作もあり、藍もまだまだ成長中。毎日何かしら藍のことを考えて、夏休みの自由研究のよう。日々にぎやかだ。



おもしろいと思うのは、藍をどの視点から見るかで見え方が違ってくる、ということ。というわけで、作品といえば作品(?)な一枚を。生地を捏ね、チーズだけでシンプルに。染めるだけではない藍のたのしみ方。

一語一絵 P206

渡辺 修宏

暑い日々が続きます。そして時々各地で、大雨とか地震とか、災害が続きます。海の向こうでは紛争や戦争がずっと続いております。

世の中を知れば知るほど不安にかれます。そこに YOUTUBE やネットニュースの情報を追加すると、ますます不安が増すばかりです。私たちが住むこの世界の未来には、悲しい出来事しか待っていないかのような気持ちにすらなってしまうです。

でもですね。よくよく考えれば、そんな不安なんて、いつの世にも蔓延っていたような気がします。そしてその時その時に、心ある人たちが一生懸命努力され、悲しみを招く出来事を予防され、回避させてきたような気がします。

私たちも、私も、今を生きる者として、努力しなければいけないんだよね...この世界を次の世代につなげるために。

対人援助実践をリポートする この一冊 P209

玉村 文

長男が小学生になり、初めての「長い夏休み」を経験しています。京都の酷暑の中でも、毎日お弁当を持って学童へ。学童から帰ってくると、子どもたちは公園へ遊びに行きます。

朝は町内会のラジオ体操にも参加しています。それにしても、ラジオ体操のある午前7時台から、すでに暑い。そんな暑さにもかかわらず、子どもたちは朝晩と公園に行くのがすっかり日課になっています。この暑さに適応するように、子どもたちの身体は進化しているのではないかと思います。ほど元気です。

一方、私はいつと、すっかり夏バテ気味の7月、8月を過ごしています。町内会が機能し、地域の中に子どもたちを見守ってくれる目があること。そのありがたさを、今年はこれまでに感じています。暑さは厳しいけれど、子どもたちの元気に励まされながら、なんとか夏を乗り切っています。

応援 母ちゃん

杉江 太郎

児童福祉の現場で働く杉江と言います。以前に原稿でも書いたことがあるのですが、今年度も団士郎さんの DVD を使った勉強会を開催する運びとなりました。今年度で4回目の開催となります。もう慣れたもので、職場内の決裁を得て、日時を決めて、団遊さんに連絡を取り、参加者を募り、DVDを受け取り、動作確認を行い...マガジンが発行される時期にはもう終わって、DVDも返却しているでしょう。

組織の中だけで行っているの、何も気を使うことはなく、気持ち的には安心して行えます。これが、他の職場に声をかけるなどとなると、他の職場の上席に了解を得たり、出張費の問題や、駐車場を確保したり等、研修以外のことに気を回す必要があります。そうしたことを考えずに自身の決定の範疇で行えることは非常にありがたいシステムだと思っています。

そして、勉強会を行っているのは DVD 中の団士郎さんであるにもかかわらず、なぜか自分自身が勉強会をしたかのような自己肯定感を高める気持ちになるのでお勧めします。組織の交流を図るために開催されてはいかがでしょうか。

「余地」-相談業務を楽しむ方法- P178

米津 達也

人生初の会社役員となった。「いや〜取り締まれ役ですわあ」というお決まりの親父ギャグも使える。

思えば就職氷河期、カバンひとつ抱えて上京。社会人一歩目は、マンションの1室で細々やってる小さな制作会社だった。山登りと一緒だ。ぼつぼつと登りながら、先の見通せない頂上を目指していく。振り返ってみれば、登ってきた山道よりも、出会った人々に感謝の念を抱く。足下の道はいつ崩落するとも限らないが、引き返すことができないのだから、この先もぼつぼつと歩みを進めるのみです。

川下の風景 P201

川畑 隆

最近、見てよかったもの

…「スターゲイトホテル関西エアポート」(泉佐野のりんくうタウン駅直結)の45階の部屋からと最上階54階のレストランからの眺め。閑空とそこを離発着する飛行機がオモチャノのように見え、泉佐野、泉南、熊取、貝塚、岸和田…そして淡路島が眼下に広がります。青い海、それが暗黒に沈んだ後も、散りばめられた宝石の中に大蛇のように横たわるオレンジ色的高速道路。なんと贅沢な時空。

…映画「マイケル」。中でも、子役のマイケル・ジャクソンの素晴らしい歌声(もしかして声は本物?)というより、歌詞を物語るようなボイスは耳に、ムーンウォークは目にこびりついています。

…京都市京セラ美術館での「日本南画院京都展」は水墨画の全国サイズの展覧会。児童相談所時代の同僚が作品を発表していることもあって入場券をもらい、毎年出かけています。よいです、水墨画。墨であること自体にすでに懐かしさが充満していて、見入ってしまいます。

最近、見なければよかったもの
…リモート会議にバスローブ姿で出席したカニング竹山似の秋田県幹部職員動画。そこに愛人も顔を見せ、またその顔にモザイクがかかっていたのも、なんというか、これがギャグだったら安手でも拍手してやったのに。

横書き都々逸②

P 187

浅田 英輔

青森は、ねぶたが終わり、お盆が過ぎるとほんとに涼しくなる。まだ日中は暑い日があるけど、夜は窓を開けていると寒いくらいだ。となると、雪のことが心配になる。いやだなあ、雪。

開業祝いということで、団編集長にイラストをいただいた。本文でつかっていきませう！

<https://co-aomori.net/>

臨床のきれはし

P 91

松村 奈奈子

夏の暑さに負けて、7月に長野県の大町市に避暑。黒部ダムアクセスポイントでもあるので、久しぶりに黒部ダムの見学もしましたが、印象に残ったのは「信濃大町駅」の近くにある昭和レトロな『大町名店街』。



近くの駐車場を見ると他府県ナンバーの車がいくつかあり、若者が「エモい」なんて言いながら写メを撮っていました。ネットで見ると、長野でも残り少ない、有名な昭和のアーケードの様です。地方都市に行くと時々見かける昭和の商店街は、再開発の波が来なくて、時の流れのままに経過したという事でもあり、いろいろ考えさせられます。でも、とっても魅かれるので、微力ですが名店街でご飯を食べながら、頑張ってくださいーい、また来まーす、と思いました。

神科医の思うこと

P 127

村本 邦子

震災15年を振り返る12日間の巡業中。どこに行ってもたくさんのお話が聴ける。自分たちもそうだが、変わらないものもある。時間が経ったからこそ語られることがある。こんな形で出会ったからこそ語られること、この場が開かれたことで生み出される語りがある。

すべては一期一会である。生きていることの尊さ、それは死者とともに生きていることの尊さなのであるが、それをしみじみ感じ入る。

周辺からの記憶

—東日本大震災家族応援プロジェクト—

P 104

9

國友 万裕

夏休みになって、やっと落ち着いてきました。この半期間は本当に大変でした。そして、それは立命館の映画の講義を受けただけからです。去年と比べて、仕事の量が増えたわけでもないのに、今年はいつもの年にも増して、体がしんどくて、家に帰るとそのまま眠ってしまうような生活でした。コマ数は変わってなくても、やはり京都から大阪まで行くのがしんどかったんだなあということがあらためてわかりました。大阪とは言っても、茨木ですから、京都と大阪の中間地点ではありますが、やはり京都に仕事を固めた方が楽なんだなあと思ったものでした。

立命館の授業が終わった後の楽しみはカフェ「ぶいいい」という駅前のお店で、ご飯を食べることでした。ちょっと高めではあるのですが、とても美味しくてヘルシーなお店でした。何よりも味噌汁が具がたっぷり美味しい。それとトーストのセットも美味しくて、本当にこの店で食べるのが楽しみで通っていました。

毎週ここで食べていたので、最終授業が終わった後で、店のお兄さんから「いつもありがとうございます」と言ってもらえました。しかし、残念ながら、立命館の授業はこれで終わりなんです。最初から半期のみのピンチヒッターという約束でしたし、来年以降また仕事を回してくれる可能性もあるけど、衣笠ならいいけど、他の大学での仕事が減らない限り、茨木まで来るのはやはりしんどい。

これからは体のことも考えながら、仕事をしなくてはなりません。僕は40歳過ぎてからは常に忙しく仕事をしていましたし、50歳ぐらいの頃は寝屋川の摂南大学で教えて、その後、京都の大学に教えに行っていたわけだから、今よりも忙しかったんですね。

だけど、あの頃はまだ今ほどにはしんどくなかった。老いは着々と近づいてきています。これからは老いを味わう生活にシフトしていかなければなりません。お金がないから仕事はできる限りたくさん続けなきゃいけないけど、侘び寂びを感じる人生に少しずつシフトです。

スポーツおじいさんになりたい！

三浦 恵子

7 月には熊本地震、そして 8 月には千葉の豪雨と、災害が相次ぎました。

亡くなられた方の御冥福と、被災された方の一日も早い生活再建をお祈りします。

熊本地震の報道に触れた瞬間、過去に自分自身が従事した被災地支援の業務、家族・親族が被災した東日本大震災に関する記憶の蓋が一気に開くような心持ちになりました。

被災された方に思いを寄せながらも映像を直視できるまでに日数を要した方も身近におられました。

被災地のインフラを圧迫せず、できるだけ速やかに支援が届く方法を考え、職能団体や現地でボランティアを受入れ調整する機関の支援を微力ながら行っているところです。

本連載でもとりあげた書籍『めざせ! ムシヨラン三ツ星 刑務所栄養士、今日も受刑者とクサクないメシ作ります』の「みようがはどこまで剥くんですか?」に関連して少し綴ります。

連れ合いに「御飯を〇合炊いておいて」と頼むと、硬さは一定であるものの、〇合の量が毎回かなり違っていました。調理実習で教わった「米1カップ、水 1.2 倍」を順守する生真面目な連れ合いなのですが、実は「カップ」を「コップ」と記憶していたのです。文字通り「コップ」のときもあれば、「マグカップ」のときもあり、ある時は茶碗のことも…目についた「容器」を使っていたため、炊きあがりの際に有意差が発生していました。「いや、カップは 180cc、1 合って決まっているから」と伝えたときの表情がいまでも忘れられません。これも「男子あるある」かもしれません。

現代社会を「関係性」という観点から考える

P171

坂口 伊都

『対人援助のための「観察力」と「質問力」の磨き方 実践に役立つ事例・ワーク・質問集』の執筆者の顔合わせと出版記念イベントで石川県に行ってきました。

オンライン研修は編著の千葉さん、寺

本さん、早樫先生のお三方が中心に展開していきました。

京都駅からサンダーバードと北陸新幹線を乗り継いで金沢へ。どちらの電車も初めて乗ったのでウキウキで旅行気分が止まりません。電車旅、楽しい。初対面の執筆者の面々と編集者に緊張したのは最初の方だけで、笑いが尽きない和やかな顔合わせになりました。

オンライン研修は、【対人援助に役立つ! あなたに直接伝える観察力と質問力の磨き方講座】という内容で、私の事例も取り上げていただきました。皆さんの話を聞きながら、改めて何を観察しているのだろうか? 私は、どのような話題ならこの人は反応したくなるかを探しているなあと思います。話題の内容だけでなく、口調やトーンをどこにチューニングしたらいいのかなとやっていると、ここかなと感じる瞬間がみつかるようになります。しかし、それがみつからないで終わると徒労感に襲われる。それを回避したい気持ちも手伝って、黙々と観察を続ける私が出来上がっているのかも知れません。

療育手帳の向こう側

P99

河岸 由里子

【片付け】私は片付けがあまり得意ではない。もったいない、まだ使える、いつか使うかもしれない……そう言うては、あれこれ取っておく癖がある。

事務所の物を少しずつ整理しており、今日は古い本を捨てようと並べてみた。しかし、懐かしさからつい手に取ってしまう。なにせ五十年前の本だ。



当時「ことてん」と呼んでいた大きく重い心理学事典や、行動理論、数心理学、異常心理学などの教科書たち。ページをめくれば、恩師や友人の顔、当時の学校の様子が鮮明によみがえる。

その先生方も、今では皆お亡くなりになってしまった。佐藤方哉先生にはよく銀座や新宿へ飲み連れて行ってもらったな、印東太郎先生の授業は難しかったな、山本和郎先生の授業は面白かったな、と記憶は尽きない。こんな感傷に浸るのも歳のせいかもしれないし、これでは片付けがちつとも進まない。いい加減、捨てようよ私。

ああ、相談業務

P66

先人の知恵から

P144

中村 正

娘夫婦がアメリカに出かけるという。2026 年秋学期からだ。彼が大学の医学部に所属しており、附属病院の医師をしている。大学からサバティカルリープの機会を得た。3 歳の子どもを連れていくという。医学領域なので人文系とはずいぶんと異なる。2 年間になるらしい。

アメリカ東部のアイビー・リーグのひとつ、イエール大学というところだ。コネチカット州ニューヘイブンという大学街にある。ニューヨークから電車で 2 時間近くかかるらしい。

娘も心理臨床について研究したいと張り切っている。問題は円安だ。保育園、住まい、自動車にはじまり、日常生活費がとても気になる。保育園は1ヶ月に 30 万円ほどらしい。驚く。研究資金は確保しているみたいだが、やはり生活費は自弁だから気になる。気温は-5 度から 28 度の幅らしい。夏は京都よりはるかに過ごしやすいが冬が大変だろう。私の連れあいは海外が好きなので、ちょくちょく行きたいといい、同じように楽しそうにしている。

私もサバティカルで長期の海外滞在を複数回経験しているので気持ちは分かる。ちょうど同じ頃、娘が 3 歳の時に、カリフォルニア州バークレイという街で父子生活をして過ごしたことを思い出す。世代が一回転したことになる。ネットが発達しているので情報収集という点ではずいぶんとスムーズだが、やはり現地で生活しながら得ることは大きい。私も何度かいくことにするか。

臨床社会学の方法

P20

中島 弘美

「わあ、涼し〜い、長袖の服を持ってきて良かった〜」そう感じたのは、北の大地、北海道。気温は20℃前後だ。

この夏、北海道の東部、釧路空港に着し、知床、摩周、阿寒湖などを訪れた。知床岬や、摩周湖など、聞いたことがある地名ばかりだが、訪れたのは今回が初めて。とにかくどこも景色が美しい。空気が澄んでいて、車道のすぐそばに、フツーにたんちようがいたりする！いくつも牧場があったり、コーン畑やそば畑が続いていたり、あちこち緑がたっぷりだ。

知床五湖の高架木道は一湖まで歩道が整備されている。熊などに遭遇しないように、安全が保たれていて、すがすがしい気分で歩くことができた。摩周湖は、摩周ブルーと呼ばれる湖だけでなく、摩周岳も美しかった。阿寒湖温泉の宿からは、湖が見え、時間によって周辺の様子が変わるのも面白かった。この大きな湖が冬になると一面が凍って、わかさを釣ることができるらしい、かなり寒そう。寒い時期は冬の自然の美しさをきっと見ることができるのだろう。

カウンセリングのお作法 P 30

黒田 長宏

Youtube マーサとクッピーのチャレンジトークも番号が30回になった。その中の演奏の部分だけ抜き出した Tiktok が、はまる人にははまってしまったというコメントをいただくことが出てきた。ということは、やたら多くの人に知られれば、かなりはまる人が出てくると想像される。『マーサとクッピーのチャレンジトーク』で検索すれば出てくるパフォーマンスに希望を見出そうとしている。

ああ結婚 P155

脇野 千恵

もう猛暑には慣れてしまった。世界情勢は日に日に悪くなる。温暖化が進む中、私のような者でも、確かに気候変動を身近に感じる。わずかな面積の畑を借りて野菜を育てるも、容赦ない太陽熱に、いくら

水をやっても実がならない。土は硬くなり雑草もなかなか抜けない。近隣の農家は、夏野菜を育てる難しさを吐露する。特に葉物の育ちが悪いそうだ。

我が家はまだまだ田園風景が楽しめる地域だが、米づくりに変化を感じる。作付け期間が短くなり、すでに稲刈りを迎えている。東南アジアのように二期作も可能になるかもしれない。

気になるのは食料自給率。日本は34%、なんと東京は0%。驚きだ。食料はお金で買えるものという当たり前のことが、当たり前でなくなる時代が来ないことを願うが、私たちの健康を維持する食料をどこからどんなふうに調達しているのか、真面目に考えておくことが大事だと思う。

こころ日記「ぼちぼち」 P 204

岡崎 正明

以前短信で最近「旅」についている、みたいな話を書いたが、今年もすでにこの8月まで、山口・高知・瀬戸内の島・仙台・福島・佐賀・長崎と行かせてもらった。仲間との研修あり、友との二人旅あり、家族との旅行あり。どれもいろんな味わいや想い出がたくさんである。

その中でも運命的なものを感じたのは、30年来の友人と2で行った、高知の足摺岬である。これまでも高知には何度か行ったことがあったが、高知市周辺がほとんどで、足摺は初めて足を踏み入れた。第一印象としては、とにかく遠い！高知市内から車で3時間もかかるのだ。そしてそれ以上に心に残っているのが、ジョン万次郎である。



これまで私の幕末知識では万次郎は「海で遭難してアメリカの捕鯨船に助けられた漁民」「英語が喋れるようになって帰国し、侍にとり立てられたラッキーな人」程度の理解であったが、ちょっと調べると実は他にも一緒に遭難した仲間がいたのだ

と。だったらなぜ彼だけが歴史に名を残すことになったのか？その背景に何があるのか？興味が沸き、記念館へ足を運んだ。

結果を言えば大満足大興奮！何より現地に行った際に「ジョン万次郎を大河ドラマにしよう」的な誘致活動をほそぼそやっていたので、気まぐれに私も友人と一緒に署名したのだが、旅行から帰って1カ月ほど経った頃、ネットニュースで「2028 年大河ドラマにジョン万次郎決定！」の文字が。これってオイラたちのおかげ？といったもの勘違いパワーが出たのだった。

ちなみにジョン万次郎が漂着した無人島に、それより50年前に漂着し、13年間そこで生き永ええ、ついには船を作って自力で帰国した「無人島長平」という人がいたと記念館の展示にサラリと書いてあり。「むしろそいつのほうがスゲー——！！」と盛り上がった。いつか長平も大河になるかなあ。

役場の対人援助論 P 86

柳 たかを

僕の本棚に長年にわたり古びた薄いハードケースに入った四角い書籍がある、英語学習を目的にした本で英語小説をネイティブの朗読者がゆっくりと読み録音されたマルチメディア書籍だ、その朗読データが収録されたプラスチックの小さなレコード盤が数枚、後ろの頁に添付されている。

収録されている作品は3作「むじな」「雪女」「耳なし芳一」。原文を書いたのはラフカディオ・ハーン、明治の頃、英語教師として明治政府に雇われ来日した、先日のNHKテレビの連続朝ドラ「ばけげん」で描かれた外国人英語教師・作家で、日本の怪異な伝承話を取材し英文で記録、後世に残した。

この朗読冊子を購入したのは50年前のことになる、僕が今も描き続ける一コママンガ作品にはキャプションといって、それぞれのマンガ作品に短い説明文をつけます、マンガ作品の意図を簡潔に伝えるメッセージ文のことです。

毎回いかに見た人の心に届く「キャプション」「言葉」を見つけるかに苦しみます。日本語でキャプションを考えると選択肢が多すぎて迷うのですが、英語に直してみる

とこちらの語彙力が無いのが幸いするのかわずかひと言ですむことが多い。

ハーンの英語の「怪談」には、ガイジン
の目を通した日本の要約、「約束」や「タブー」といった万国共通のテーマの物語へ
単純化され、シンプルにストンと胸に入っ
てくるように思います。今回はそのうちの
「雪女」に取り組んでみました。

「雪女」 P131

原田 希

歳をとると白髪(毛)が増える牛さんが
います。白が増えて黒が消え、大きな斑
紋の形も変っていくことがあります。今回
は美容院の話を書きましたが、白髪の生
える場所で体の弱っている部分がわかる
そう。

白髪が増えた牛さんを見つけたらそっと
撫でていたわっています。北海道は朝晩、
秋の空気になってきました。



原田牧場Note P184

竹中 尚文

月に 1 回のホームレス支援だけれど、
提供するのは食品[いなり寿司・ゆで卵・
アルファ米・月替わりの食事]と日用品[固
形石鹸・ブラシ・ひげ剃り・ヘヤーブラシ]
である。アルファ米は災害用の賞味期限
に近づいた物を寄付してもらっている。日
用品の多くはいろんな人たちが少しずつ
提供してくださる。いなり揚げは毎回 300
枚以上を使用するので、卸売業者から配
送されてくる。買い出しに行くのは卵と月

替わりの食材である。今月は「冷たい素麺」
だった。先月は「バターチキンカレー」だっ
た。◆前日の準備作業は、ゆで卵は 60
個を茹でる。たくさんの卵なので、それな
りの難しさがあるが少しずつ腕を上げたと思
う。他に、お米を洗っておくことやカレー
などは野菜を切っておいて、これら準備物
を冷蔵庫に入れておく。この作業を私たち
夫婦で行う。ここにお葬式という予定外の
ことが起きると大変である。何度かそうし
たことがあるが、どうやってクリアしたか記
憶が定かでない。◆当日は午前中に「ご
馳走」の調理を始める。今回は素麺だった
から茹でただけである。4kg の素麺はそん
なに簡単に茹でられない。20 分の湯を沸
かして、1 kg ずつ茹でた。昼頃になると 3
〜6 升のご飯を炊く。昼過ぎにお寺の婦人
会の人たちが来てくれて、いなり寿司を作
る。それらすべてをワンボックスカーに積
み込んで 16 時ごろにお寺を出発する。大
阪の扇町公園に到着するのは 18 時半で、
大阪のボランティアの人たちが来てくれて、
荷物を駐車場から公園に運び込む。仕事
帰りのボランティアの人たちが少しずつ増
えて、19 時半には準備完了。その頃には
病院の診察を終えたお医者さんも来てく
れる。20 時半か 21 時に終了して、撤収
する。急ぐ人はこの時点で帰宅に向かう。
近所の食事処でボランティアの人たちと反
省会というか情報交換などをしながら遅い
夕食をとる。22 時ごろに終了となる。◆私
はここから姫路にあるお寺に帰る。これま
でだったら、1 時間半か 2 時間で帰り着い
た。それが、ここ数ヶ月、すっかり時間が
かかるようになった。眠くて仕方がない。
今回は 4 時間半もかかった。この支援を
始めて 13 年になる。その頃はひとつパシ
リだった。

路上生活者の個人史 P75

千葉 晃央

山口県での仕事の前に、時間を少し作
って長生炭鉱跡へ。1942 年、山口県宇部
市の海底炭鉱「長生炭鉱」で、崩落水没
事故が発生。朝鮮半島出身者 136 人を含
む、183 人が犠牲に。遺体は収容されな
いまも現在も。近年、ダイバーで遺骨回収
も、さらにそのダイバーも事故…。ここまで

の経過は報道やドキュメンタリーで複数み
てきた。

現場には JR 宇部線の線路の脇を通っ
て向かう。水路が道沿いにあり、そこには
カニたちがたくさん。民家もあり、そこを抜
けると炭鉱入り口跡。その横には真新し
い花がたくさん供えられた慰霊碑。碑も複
数。元坑道は海の下なので海面から突き
出ている排気塔(通称「ピーヤ」)があり、
その 2 本が今も砂浜から少しのところの
海の中、その波間に立っている。

事故の説明プレートもある。慰霊、保存
等の活動も複数で活発。この炭鉱を含む、
元宇部炭鉱に関しては、宇部市石炭記念
館があり、後世に伝えている。訪問すると、
当時の坑道出入口が再現されていた。現
場を訪れて思うのは、報道ではわからない、
様々なこと。一方のニュースでは防衛
費の拡大がますます進む…。

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P16

見野 大介

職業病の腰痛防止のための朝散歩、
暑すぎてサボってます。腰のためにも早く
秋になってほしいです。

ハチドリの器 P4

荒木 晃子

本年7月に主催した「対人援助学会第
36 回研究会」では、LGBTQ+ 当事者支援
を長きに渡り継続するお二人にお話し
いただく機会を設けた。筆者を含め、参加
した方々は、教育、心理それぞれの専門性
を持つお二人のお話から多くの学びを得
たに違いない。当事者支援について、知ら
なかったこと、異なる視点だから見えるも
の、(当事者を)知っている・理解している
から言えることなど、参加者がこれまで知
っている、理解できていると思っていた、
“勘違い”や思い違いに改めて気づいた方
もいるかもしれない。かく言う筆者も多くの
気づきを得たひとりである。

お二人のお話の後は、恩師の中村正先

生に指定討論をお願いした。直接、ゲストスピーカーへ、(いつもの)鋭い突っ込みを入れていただこうとの目論見があつてのことである。無事、作戦は成功したように思う。中村先生からの示唆は、結果としてゲストスピーカーのお二人の、より深い学びにつながったのではないだろうか。そうであつて欲しいと願っている。司会を担当した筆者といえ、お二人のゲストから得た多くの学びと、熱いディスカッションにパンク状態。閉会の挨拶を失念して、さっさと退室してしまうという大失態をやらせてしまいました。みなさん、ごめんなさい。

生殖医療と家族援助 P74

野中 浩一

ベトナム生活が始まって1か月。7月下旬に日本を発ってハノイでの生活がはじまり、その1週間後にはハノイからダナンに移動して、また新たな環境で生活しています。そんなベトナムの街を歩いていると、なぜか私の脳裏に昭和的なノスタルジーがよぎる瞬間があります。雑多な個人商店が多くて賑わっているからでしょうか。さて、9月からダナンは夏を終えて、長い雨季に入ります。そして私は大学での活動が始動します。先が読めない不安と、先が読めない楽しさ。どうぞ本編もご一読ください。

島根の中山間地から Work as Life P219

西川 友理

大阪キリスト教短期大学で保育幼児教育者養成に、またそれ以外の場所でも福祉系対人援助職養成に携わっています。

大阪を中心に、おやこ対話や当事者研究やらの対話の場でファシリテーターとして出没しております。

今回私は、本マガジンで「現象学としての書道」を連載していらっしゃる櫻井育子さんの講座に参加した感想を書きました。大変面白かったんです！保育にも、福祉にも、対話の場にも、いや、対人援助と呼ばれるあらゆる活動をしている人に、とてもおすすめです。

櫻井さんはどうやら10月にもこの講座を開催するご予定のようです。詳しくは本文に櫻井さんのHPのアドレスを書きましたので、チェックしてみてください！

福祉系対人援助職養成の 現場から P62

松岡 園子

朝晩、少しずつ秋の気配を感じるようになりました。店先には秋らしいものが並び始めています。私もそろそろ秋を楽しもうと思うのですが、暑いので今日も冷たい飲み物を選びました。気持ちは秋、身体はまだ夏。季節の変わり目は、いろいろと足まみがそろわないようです。

統合失調症を患う母と ともに生きる子ども P181

寺田 弘志

10月で開業30周年を迎えます。

何かイベントをやりたいと思っていたところ、ちょうどその時期に商工会議所主催で「茨木まちゼミ」が開催されることがわかりました。当院も「第19回茨木まちゼミ」に参加し、痛みやこりを改善できるセラピーごっこ講座を開きます。

内容は「専門知識がなくても家庭でできるセラピーごっこをおぼえて、あなたもゴッドハンドをめざしましょう」というものです。

開催日時 2026年11月7日土曜日
午後1時～2時30分 寺田接骨院下中条本院 電話 072-621-8888

2026年11月14日土曜日午後1時30分～3時 寺田接骨院西駅前分院 電話 072-621-8767

上記日時以外にも、「裏ゼミ」を設けています。裏ゼミ受講ご希望の方は、当院に電話でお問い合わせください。

10月20日以降にお電話でお申し込みください。参加費は無料です。

接骨院に心理学を入れて P163

篠原 ユキオ

運転免許センターにて

高齢者ドライバーの事故のニュースがあると「年寄りは運転するな！」という言葉が出る。高齢者にも幅があるがわが家の近所では多くの80代の元気な人たちが車を運転している。自分自身もバスと電車を使う事が多かったがまだまだ車は手放せない。

歳を取ると視力は落ちるし白内障が入って来て、夜の運転時には対向車のライトが眩しく視界に影響が出る。特に明るいとこのそばの影の部分が見えにくい。

これを自覚しているので夜は知った道しか走らない。それでも必要に迫られて出なければならない時はいつも以上に安全運転を心がける。

先日、免許証の更新に行った時、高齢者ばかりのグループの一番乗りだったが集まった人たちに向かって係員がこう聞くのだ。「皆さんの中でマイナ免許証にされる方はおられますか？」

マイナ免許証はマイナンバーカードと免許証が1枚になっている訳だが1枚で良いというのはその方が不安である。紛失すれば2枚分のダメージとなるわけだ。調べてみると更新時の講習がオンラインでも出来るらしい。

しかし説明の最後に(60歳以下)との但し書き。はなっから高齢者に出来ないようになっているのだ。予想通りだったが誰も手を上げる人はいなかった。最初から結構差別されてるんだよね。



HITOKOMART P197

山口 洋典

7月28日の令和8年熊本地震、各地で相次ぐ豪雨災害、さらにはネパールでの洪水と、災害が相次いでいます。被害に遭われた方々に、心からお見舞い申し上げます。

この4月から1年間、立命館大学の学外研究制度により、生活拠点を石川県七

尾市田鶴浜地区に据えています。比較的頻繁に利用している七尾線も、8月27日からの大雨によって線路の土台が流されたことにより、羽咋～七尾間で長期運休を余儀なくされました。

人と防災未来センター長も務める関西大学の河田恵昭先生は、災害多発時代であることを踏まえ、災害を防ぐ「防災」、災害の被害を減らす「減災」に加えて、「縮災」という観点を2015年に提示しました。

災害から復興に至るまでの時間を縮めようという視点であり、改めて人々の知恵と行動が重要であることを痛感させられる2026年です。

PBLの風と土 P157

鶴野 祐介

昨日(8月30日)、65年生まれてきておそらく初めての、気を失う体験をしました。熱中症でしょう。バス停でベンチに座っていた時、急に目の前が真っ白になり、額を地面にぶつけて気がつきました。周囲の方がたが介抱して下さり、濡れタオルや冷たい水のペットボトルを下さって、一息ついてからタクシーで帰宅しました。幸い、打撲傷だけで骨や脳内部には別状ないとの診断でした。しばらく静養することになります。皆様もどうぞくれぐれもご自愛ください。

うたとかたりの対人援助学 P151

鶴谷 主一

65号で10ページにも渡って紹介した「年長組お泊まり保育」は、今年度「熊」の出現によって外部での宿泊にピリオドを打ちました。27年ぶりに園で泊まることに変更したのですが、この変更は、最近の保育業界の傾向からいくと必然だったのかもしれない。

より子ども主体を重視した保育方法の変化、猛暑や環境の変化への対応、園運営の変化など、いろんなことが変化している昨今、「いままでと同じように」という固定概念こそ柔軟に変化させなければならぬのでしょう。

幼稚園の現場から

P54

山下 桂永子

昨日まで、旧友たちと北海道に2泊3日で行ってきました。8人でレンタカーを借りて小樽や積丹半島をめぐり、漁師宿での美味しい食事に、素晴らしい風景を堪能し、なにより30年前の話を共有できる人がいること、会わなかった30年間の思い出を合える人がいるということがうれしくて、喉がカスカスになるほどしゃべり倒し、笑い倒した3日間でした。内容とは関係ありませんが読んで頂ければ幸いです。



心理コーディネーターになるために P139

鳴海 明敏

備忘録～理事長の独り言～

県庁職員を定年退職した翌月、2010年平成22年4月に新規開設された児童心理治療施設青森おおぞら学園の園長を引き受けて、15年間勤めました。

2024年令和6年秋に軽い脳梗塞で入院し、それを機に、翌2025年令和7年3月で園長職を退き、現在は、法人の理事長として、週に3日学園に顔を出すという生活をしています。

そんな生活をしながらか、思い出したことや気が付いたこと、整理しておきたいことなどのあれやこれやについて、思いつくままに書き残していこうかと思います。

学園のこどもたちのことを紹介することもあるかと思いますが、それなりのカモフラージュを施しています。

理事長として、週三日5時間ずつ出勤する生活も1年5か月を経過しました。「三日出かけて四日在宅」というペースにもだいぶ慣れてきました。時間の使い方が、少しずつ上手くなってきたと思っています。

新園長の邪魔をしないようにしながら、少し距離をおいて、学園の子どもたちと職員を眺めています。

月一のペースで開催している「フォーカシングの会」と、同じくらいのペースでウェブで開催している「(カウンセリング関係)文献を読む会」への参加が楽しみです。

8月には、弘前カウンセリング研究会主催の一日ワークショップの講師を頼まれました。ワークのテーマが「フォーカシング」だったので、「フォーカシングの会」と一緒にやっている“おひげのKさん”と一緒に引き受けました。

理事長の独り言 P241

古川 秀明

心理系や教育系の大学・大学院に通う学生を対象にしたワークショップを、5月から開催している。「若い人を育てたい」という、私自身の欲に突き動かされた、わがままな研修会だ。誰かから依頼されたわけでも、報酬をいただいているわけでもない。まったくの自主企画である。

現場で35年かけて培ってきたノウハウを学生に伝え、自殺予防に寄与できる人材を育てたい——それが目的だ。現在、10名ほどの学生が参加してくれている。受講料は無料。私も無報酬。

「よ〜し、存分に教えてあげよう！」そう意気込んでいたのだが、蓋を開けてみれば、私のほうが学ばされてばかりいる。むしろ、私が学生から学んでいるようにも思える。

いつまで続くかはわからない。けれど、この取り組みを、ひとつのライフワークとして大切にしていきたい。

講演&ライブな日々 P96

高木 久美子

<https://www.goishshoshimasho.com/>

國學院大學人間開発学部教授の柴田保之先生と障害当事者の方々が主催するお話し会「きんこんの会」に参加しました。「きんこんの会」には、先天性または出生

後の病気等で乳幼児期から障害をお持ちの方、病気や事故による心肺停止から蘇生後に重度の障害が残った方、神経難病の方などが集い、柴田先生の介助付きコミュニケーション「指筆談」の書字介助により、お一人ずつ、日々の生活のことから社会問題まで幅広いテーマで自由に発言されます。

会の前後や休憩時間に、私も参加者の皆さんと指筆談で個人的にお話させていただきました。

その日、お一人韓国出身の方がいらっしやいました。

その方は日本語が堪能で、指筆談介助で表音文字として書かれるひらがなもとても早くてよどみなく、お話するように対話できて一気におしゃべりに花が咲きました。私は以前韓国語を少し勉強していたことがあるので、その方の書字介助をしながらかもつい、チャンス到来！と思ってしまい、「ハングルで何か書いてみていただけませんか」とお願いしました。

私はアルファベットは読み取ったことがあったのですがハングルは初めてだったので、慎重にと強く意識してしまいましたが、その方は私が緊張しているのがわかったのでしょうか。ゆっくりと書き始めてくださいました。

最初に縦線、それから横線から下に降りて縦線、そして横線。ストロークがはっきり私の脳のディスプレイに移りました。その通りに 1 画ずつ、その方と共に私の手のひらに力を増幅して書きました。子音の「m」を表す「ミウム」でした。

良い感じで同調できたようで、その後は、その方が少し速度を上げて書いてくださいました。

만나서 반갑습니다

「マンナソ パンガッブスムニダ」と読み上げると、「〇」を書いてくださいました。

“お会いできてうれしいです”

私もうれしいです！

まず、無事に読み取れたのがうれしいし、これから母語でもこの方のお手伝いができると思うととてもうれしい。もちろん韓国語をしっかりと勉強しなくちゃいけないけど。そして何より、本当にお会いできてうれしい。日本語でお話した時にこの方の強烈な魅力に釘付けになったので、介助者としてだけでなく、ぜひお友達になりたい

です！

新しい出会いがあり、かつて勉強したことが活かされたことがとてもうれしかった一日でした。

**ヨミトリとヨミトリ君で
ご一緒にしましょ！**

P228

大谷 多加志

充実しながらも慌ただしい日々が続いています。誘われると何でもホイホイ乗ってしまう質と、仕事が無いことを恐れる貧乏性が原因と思われますが、結果的に面白い体験になることが多いと、なかなか止められません。

とはいえ、体力も落ちてきて、無理をすればパフォーマンスも落ちてくるので、もう少しいい塩梅を探るべきなのかもしれません。そんなことを考えていたら、いつの間にか 3 か月経っている、というのが最近の暮らしぶりです。

発達検査と対人援助学

P 93



迫 共

今回は休載です。申し訳ありません。書きたいことはたくさんあるのですが、この夏は社会福祉士と精神保健福祉士の実習演習担当教員講習を受けており、時間と体力がなくなっていました。zoom で 17 日間の講習。コロナ対策の時期を思い出しました。zoom 講習の合間に投稿論文の査読の返しと紀要論文作成、科研費申請などを行っています。

9 月 2 週目に後期オリエンテーションが始まります。ようやく一息つけそうです(笑)。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ

休載